

高アンモニア血症と同時に甲状腺機能低下を認めた慢性甲状腺炎の1例

わ だ まさ ゆき くり おか そう いち
和 田 昌 幸¹⁾ 栗 岡 聡 一²⁾
すぎ もと とし つぐ
杉 本 利 嗣²⁾

キーワード：意識障害，慢性甲状腺炎，高アンモニア血症

要 旨

甲状腺機能低下と，それに伴い高アンモニア血症を認めた症例を経験したので報告する。(症例) 80歳，男性。(主訴) 労作時呼吸困難 (現病歴) アルツハイマー型認知症で当院通院中。2005年5月頃から労作時の呼吸困難があり当院を受診，下腿の浮腫と，胸水を認め，精査，加療目的で入院。(経過) 浮腫，胸水は慢性心不全の増悪が原因と考えられ，利尿剤使用などで改善した。入院後羽ばたき振戦，意識レベルの低下を認めた。192 $\mu\text{g}/\text{dl}$ と高アンモニア血症を認め，同時に甲状腺ホルモンの検査を行い FT4 0.48 ng/dl ，TSH 32.28 $\mu\text{U}/\text{ml}$ と低下を認めた。高アンモニア血症に対する加療を行うも意識レベルは改善せず，甲状腺ホルモン補充が有効であった。(まとめ) 甲状腺ホルモンと肝臓の関係が指摘され，高アンモニア血症患者の意識障害が遷延する場合には，甲状腺ホルモンの測定が必要であると考えられた。

はじめに

従来肝臓は内分泌系から独立した臓器と考えられてきたが，近年肝臓はホルモン応答臓器であり，甲状腺ホルモンが肝機能に影響を与えることが報告されている¹⁾。今回我々は，高アンモニア血症の増悪とともに甲状腺機能が低下した慢性甲

状腺炎の1例を経験した。高アンモニア血症と甲状腺機能の関連が示唆されたが，このような症例報告は少なく，文献的考察を加えて報告する。

症 例

(症例) 80歳男性

(主訴) 労作時呼吸困難

(現病歴) 1999年ごろから脳梗塞後遺症，アルツハイマー型認知症などで当院神経内科通院中であつた。症状は安定していたが，2005年3月ごろから労作時呼吸困難が出現した。近距離を歩いた

Masayuki WADA et al.

1) 町立奥出雲病院内科

2) 島根大学医学部内科学第一

連絡先：〒699-1511 仁多郡奥出雲町三成1622-1